

イデックスオイルレポート ~For a week~

2024/1/19作成 (株)新出光

【概況】<中東情勢の緊迫~米エネルギー原油在庫減>

●12日、米英両軍は11日、紅海で船舶攻撃を仕掛けるイエメンの親イラン武装組織フーシ派の拠点を空爆。これに対し、中東諸国からは反発の声が相次ぎ、地域の緊張が一段と高まることへの警戒感が強まり、相場は72.68ドルへ続伸しました。

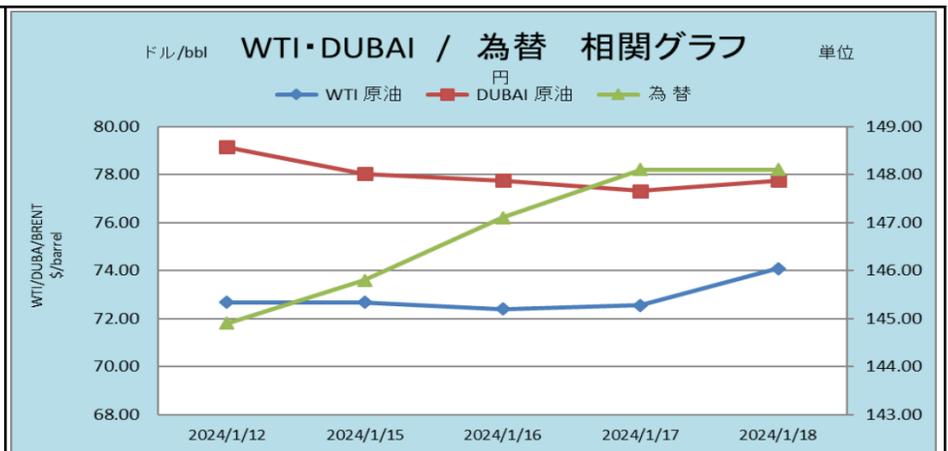
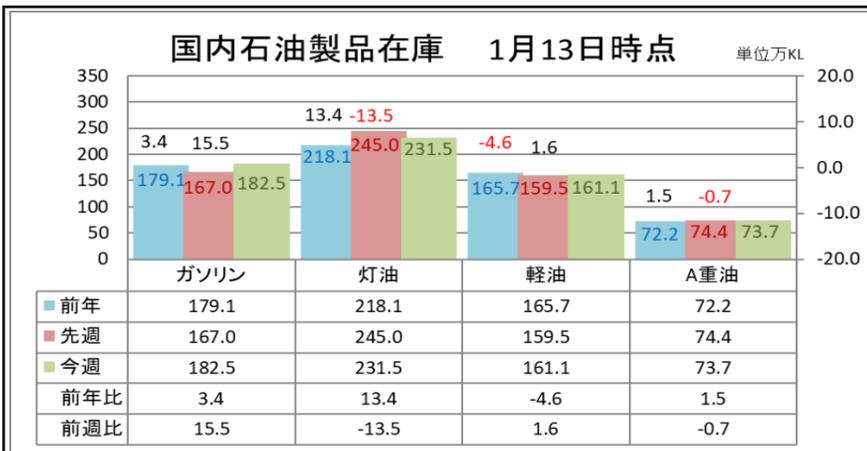
●15日、キング牧師生誕記念日のため休場。

●16日、米長期金利の指標とされる10年債利回りが4%近辺で高止まりする中、外国為替市場では、ドルが対ユーロで上伸。ドル建てで取引される商品の割高感を受けて利益確定の原油売りが先行し、相場は一時71ドル台まで下落。安値拾いや中東の地政学リスクの高まりを警戒した買い戻しにいったんプラス圏に浮上する場面もあったが相場は72.4ドルへ反落しました。

●17日、世界最大の石油輸入国である中国の2023年の国内総生産(GDP)がさえない内容だったことをきっかけに同国の景気回復に対する懸念が浮上。石油需要減退への警戒感につながり、原油の売り地合いが続いた。加えて、国際エネルギー機関(IEA)のピロル事務局長は17日、スイス東部ダボスで開催中の世界経済フォーラム(ダボス会議)で、中東情勢が緊迫化する一方、紅海の混乱が今のところ石油生産へ影響を及ぼしていないとした上で、今年の石油市場は「安定し、より均衡が取れた状態になるとみている」と発言。ただ、取引終盤にまとまった買いが入り、相場は午前下げ幅を一掃。プラス圏に浮上した。石油輸出国機構(OPEC)は17日に公表した月報で、24年の世界石油需要の伸びを日量225万バレルと前月予想を据え置いたほか、25年の需要の伸びは日量185万バレルとし、中国と中東を筆頭に力強い需要拡大が見込まれるとの予想を示し相場は72.56ドルへ反発しました。

●18日、米エネルギー情報局(EIA)が発表した週間在庫統計で、原油在庫は前週比250万バレル減と、市場予想(ロイター通信拡大版調査)の30万バレル減を大きく上回る取り崩し幅となった。発表を受けて需給引き締め観測が強まり、買いが膨らんだ。これに先立ち、国際エネルギー機関(IEA)は18日発表の月報で、2024年の石油需要が日量124万バレル増となるとの見通しを示し、当初予想から日量18万バレル上方修正し相場は74.08ドルへ反発しました。

1月19日 16:00現在 WTI原油 74.15ドル 為替 1ドル 149.19円



	次回元売変動予測	
	1/25~	元売変動予測
ガソリン	→	-0.9~-0.4
灯油	→	-0.9~-0.4
軽油	→	-0.9~-0.4
A重油	→	-0.9~-0.4
LSA	→	-0.9~-0.4

【製品卸価格】

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「+1.0円」、補助金は、「-16.3円・60%」、都合「-0.3円」の値下げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの15日時点の小売価格平均は175.3円となっております。

《1月20日以降》次回の元売り改定は、原油コストは「+1.0円~+1.5円」、激変緩和補助金は「-18.2円・60%」の見込みで、都合「-0.9円~-0.4円」の改定の予測となっております。

※原油コスト「+1.0円~+1.5円」
 ※激変緩和補助金「-18.2円」 前週比-1.9円
 ※現時点での予測です。

【次世代エネルギー】<ENEOS、米国で水素製造計画に出資 年数万トン輸入>

ENEOSは11日、米国で水素製造を手掛けるプロジェクト、MVCEに出資すると発表した。2030年ごろの稼働開始を見込んでおり、年数万トン規模の水素を日本に輸入する。製鉄や発電、運輸など様々な分野の脱炭素に欠かせない水素の調達網を拡充する。

米国メキシコ湾岸からパイプライン経由で調達した天然ガス由来の水素やアンモニアの製造を計画している。製造過程で排出された二酸化炭素(CO2)を回収し、地下に貯留することも検討する。

ENEOSは水素をトルエンと結合させた「メチルシクロヘキサン(MCH)」として石油タンカーを使って常温で輸送する技術を開発している。MCHの製造技術を活用し、MVCEが製造した水素を日本に長距離輸送する狙いだ。

ENEOSはオーストラリアやマレーシアでも水素の製造計画に参画するなど、世界各地で水素サプライチェーン(供給網)の構築を進めている。

[出典] 日経電子版 <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC113AX0R10C24A1000000/>